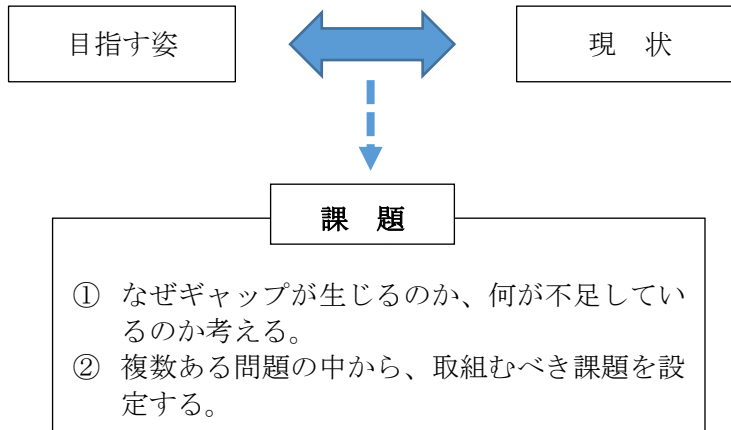


課題抽出の方法について

1 「課題」とは



2 資料3「課題抽出のためのワークシート」による展開手順

課題抽出のためのワークシート 資料3-1

【日常の療養支援】

目指す姿 医療と介護が必要になっても、住み慣れた場所で生活することができる。

現状 様々な理由により、在宅療養生活が困難になる人がいる。また、家族がいてもいなくても、不安を感じながら生活している。

【なぜ在宅療養生活が困難になってしまうのか考える】

本人・家族・地域に関すること	専門職・医療機関等に関すること	その他のこと
- 高齢世帯が増えている。同居家族がいなくても高齢だったり、子世代も就労していたりする。 - 家族のストレス、疲労 - ADLや認知機能の低下 - 夜間休日に問題が生じないか不安である。 - 医療や介護を担う人がいる。意思を持って拒否する人、認知症、ひきこもり、サービスへの理解不足など背景は様々である。 - 本人を敬遠する家族も疲弊する。 - 家族が亡くなると孤立しがちである。 - 受診の内容を理解してケアマネジャー等へ伝えることが困難な人がある。	- 提供体制が充足していないため、希望のサービスや必要とされるリハビリが受けられないことがある。 - 在宅等に対応できる医療機関が少ない。 - 新型コロナウイルス陽性者/濃厚接触者のサービス再開時期が事業所によって異なる。 - サービス導入が遅いことがある。 - 人材不足	

【取り組むべき課題は何かを考える】

必要性	重要性	取り組みやすさ	課題
☒	☒	☐	介護を担う家族の身体的精神的ストレスを軽減する必要がある。
☒	☒	☐	夜間休日の不安が解消できるようにする。
☒	☒	☐	在宅医療・介護・訪問介護等の供給不足をカバーする方策を見つけて取り組む。
☐	☐	☐	
☐	☐	☐	

ステップ1

なぜギャップが生じるのか、問題は何かを出す。

ステップ2

ギャップを生んでいる問題の中から、取り組むべき課題を選定する。
課題が抽象的だと対策も抽象的になり、対症療法的なものとなりやすくなるため、課題は具体化する。

例) よく見られる課題

「医療機関と介護関係者の連携が弱い」

↑

いつ（どの時点）の連携が弱いのか？
何のための連携が弱いのか？
誰と誰の連携が弱いのか？

課題を選定する際の視点

- ✓ 課題としての緊急性
- ✓ 課題の重要性（目的や目標達成に直結する課題かどうか）
- ✓ 課題としての取り組みやすさ（緊急性や重要性を鑑みた上で）